



文苑

天長節に友を招く

池田 愛子

しつたまさいやしき身もけふのよき日にもだして  
やはべらるへき男のすなるうたげなとはさてこそ  
あれ親しき友とちうちつとみつゝあるはすま琴に  
千代の調をこめあるは菊の花によせて君をいはひ  
まつらんはいかに心ゆくわざにかはへらむうから  
やからの誰かれも來あひ侍りたいいもとの君のこ  
ゝもとにおはせぬのみいふかひなら口をしうなむ  
いかて萬の事をさしおき給ひて御車まけさせ給ひ  
てやかして

公德唱歌 (其三)

學校の詩人

鬼さんどこへさう來りや逃る

つかまりや鬼よ輪を出りや鬼よ

輪を出た鬼はいけない鬼よ

さあ〜皆にわびして鬼よ

同上 (其四)

たこ〜あがれあがればはめる

くるツちやだめよおちればだめよ

こゝらの野には電信はないよ

わけてもよろし遠慮はないよ

(完)

四季

小林 恒子

いつかまつ春返り來て 野邊はたんぼゝすみれ花